



令和2年10月22日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel : 03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム（START） 新規プロジェクトの決定について（2020年度審査分）

JST（理事長 濱口 道成）は、大学発新産業創出プログラム（START）「プロジェクト支援型」における2020年度審査分の新規プロジェクト9件を決定しました（別紙）。

本プログラムは、ベンチャーキャピタルなどの事業化ノウハウを持った人材を「事業プロモーター（参考1）」として活用し、研究者と共に事業戦略、知財戦略を構築しつつ市場や出口を見据えた研究開発と事業育成を一体的に推進し、企業価値の高いベンチャー企業の設立を目指します（参考2）。

本プログラムでは、まず大学などの研究者から技術シーズの応募を受け付けます。事業プロモーターは申請された技術シーズの中から事業化の可能性があると判断されるものを選び、研究者と共にビジネスモデルを検討します。その後、研究者と事業プロモーターから提案される技術シーズやビジネスモデルなどに対して、外部専門家で構成される委員会にて審査し、その結果を基に新規プロジェクトを決定します。

本年度は2020年1月31日（金）から4月17日（金）まで技術シーズを募集したところ76件の応募があり、9件の新規プロジェクトを決定しました。

今後、契約などの条件が整い次第、研究開発を開始する予定です。

<添付資料>

別紙：研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム（START）「プロジェクト支援型」採択プロジェクト一覧（2020年度審査分）

参考1：2020年度に新規技術シーズの選択を実施する事業プロモーターユニット一覧

参考2：大学発新産業創出プログラム（START）について

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 産学連携展開部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

森田 浩（モリタ ヒロシ）

Tel : 03-5214-7054 Fax : 03-3238-5373

E-mail : [start\[at\]jst.go.jp](mailto:start[at]jst.go.jp)

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム（START）
「プロジェクト支援型」
採択プロジェクト一覧（2020年度審査分）

（事業プロモーターユニット代表実施機関の五十音順）

プロジェクト名	研究代表者	事業プロモーター ユニット 代表実施機関	プロジェクト概要
1分子計測リキッドバイオプシーの事業化	東京大学 大学院薬学系研究科 助教 小松 徹	ANRI株式会社	血液・尿などの低侵襲に採取できるサンプルに含まれるたんぱく質の機能を、網羅的かつ1分子レベルの高感度で検出するリキッドバイオプシー技術を実用化し、患者の層別化・コンパニオン診断薬開発に加えて、がんなどの早期診断事業への展開を目指す。
産業用ロボットの生産性向上を実現する球駆動式全方向移動装置技術の事業化	九州工業大学 大学院生命体工学研究科 准教授 宮本 弘之	株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ	車輪の代わりに球を用いた移動自在な球駆動式全方向移動装置の開発を行う。ヒト協働ロボットや搬送ロボット・AGVなどを効率良く稼働させるための台車として、世界的にもユニークな産業用の全方向移動装置を製造・販売するベンチャーの創業を目指す。 ※2019年度社会還元加速プログラム（SCORE）採択課題
ワンショット・ナノレベル表面形状測定機の事業化	兵庫県立大学 大学院工学研究科 特任教授 佐藤 邦弘	QBキャピタル合同会社	電子部品や機械部品などの表面凹凸や平坦度を、高分解能・大面積・ワンショットで測定可能な装置の開発を行う。スタンドアロン型装置の開発・製造・販売から、さらにインライン測定可能な装置の事業化を行うベンチャーの設立を目指す。
iPS細胞を原材料とした骨形成誘導補填材の開発	東北大学 大学院歯学研究科 教授 江草 宏	株式会社日本医療機器開発機構	iPS細胞由来の骨芽細胞塊を凍結乾燥したものを原材料とする骨補填材・人工骨の開発を行う。従来品に比べて高い骨形成能と吸収置換性を有する競合優位性の高い製品として、歯科・整形外科領域で事業化し、世界展開を目指す。

プロジェクト名	研究代表者	事業プロモーター ユニット 代表実施機関	プロジェクト概要
工業用ポリマーを基盤としたインクレス印刷技術の開発	京都大学 高等 研究院 物質－ 細胞システム 統合拠点 教授 イーサン・シ バニア	日本戦略投資株式 会社	ポリマーによる構造色を用いたインクレス印刷手法の技術シーズを活用し、高解像度かつユニークな色変化などを付与した偽造防止ラベル印刷技術を開発する。さらに、プラスチック包装向けインクレス印刷技術の開発によって、環境負荷軽減およびリサイクル向上に貢献するベンチャー設立を目指す。
癌・ウイルス等の簡便、迅速、超高感度な検査・分析プラットフォームテクノロジーの開発	神戸大学 大学 院工学研究科 教授 竹内 俊文	バイオ・サイト・ キャピタル株式会 社	癌の早期発見、転移の有無およびウイルス感染などを判定するために、体液中のエクソソームやウイルスを簡便、迅速、低侵襲、超高感度に検出する検査法を開発し、グローバルな事業化を図るためにベンチャーの設立を目指す。
革新的がん放射性治療薬の事業化に向けた技術開発	量子科学技術 研究開発機構 放射線医学総合 研究所 上 席研究員 吉井 幸恵	バイオ・サイト・ キャピタル株式会 社	悪性脳腫瘍などの難治がんを、副作用少なく効果的に治療できる核種 ⁶⁴ Cuを用いた国産初の放射性治療薬を開発する。現在臨床試験中の本薬剤を事業化するために、放射性治療薬の製造販売に特化したベンチャーの設立を目指す。
急性胆嚢炎の治療を革新するドレナージキットの開発と事業化	東北大学 大学 院工学研究科 准教授 宮本 浩一郎	Beyond Ne xt Ventur es 株式会社	低侵襲な急性胆嚢炎治療を実現し、さらには内視鏡治療を革新する医療機器の開発と事業展開を目指す。 ※2019年度社会還元加速プログラム（SCORE）採択課題
籠型分子を用いた超高密度不揮発性メモリおよび超低消費電力AIチップの開発	広島大学 大学 院先進理工系 科学研究科 教授 西原 禎文	ユニバーサルマテ リアルズインキュ ベーター株式会社	1ナノメートルサイズの1つの分子に情報を記録できる籠型分子を用いて、高速・高密度・低消費電力の不揮発性メモリを開発する。AI・ビッグデータ時代を支える革新的コンピューターの実現に貢献するベンチャー設立を目指す。

2020年度に新規技術シーズの選択を実施する
事業プロモーターユニット一覧

(代表実施機関 開始年度ごとに五十音順)

代表実施機関 (共同実施機関)	代表事業 プロモーター	開始年度	出資母体 種別
ANRI株式会社	代表取締役 佐俣 安理	2016	独立系
QBキャピタル合同会社	代表パートナー 坂本 剛	2016	独立系
ニッセイ・キャピタル株式会社	取締役 高田 実	2016	生損保会社 系
ウエルインベストメント株式会社	代表取締役社長 瀧口 匡	2017	独立系
株式会社ジャフコ	取締役パートナー 三好 啓介	2017	独立系
株式会社東京大学エッジキャピタル パートナーズ	代表取締役社長・マネ ージングパートナー 郷治 友孝	2017	独立系
バイオ・サイト・キャピタル株式会社	代表取締役 谷 正之	2017	独立系
株式会社FFGベンチャービジネス パートナーズ	取締役副社長 山口 泰久	2018	銀行系
ユニバーサルマテリアルズインキュ ベーター株式会社	代表取締役パートナー 木場 祥介	2018	独立系
日本戦略投資株式会社 (ティーエスアイ株式会社)	取締役 上原 健一	2019	独立系
MedVenture Partners株式 会社	代表取締役社長 大下 創	2019	独立系
Beyond Next Ventures株式 会社	代表取締役社長 伊藤 毅	2020	独立系
株式会社デフタ・キャピタル	取締役 丹治 幹雄	2020	独立系
株式会社日本医療機器開発機構	代表取締役 内田 毅彦	2020	独立系

大学発新産業創出プログラム（START）について

1. STARTの概要・目的

大学発新産業創出プログラム（START: Program for Creating **ST**art-ups from **Ad**vanced **R**esearch and **T**echnology）は、日本の大学等^{注1)}の基礎研究成果に関し、大学等発ベンチャーなどを通じた新規マーケットへの事業展開が十分に行われていない当時の現状を踏まえて、平成24年度に文部科学省により大学発新産業創出拠点プロジェクトとして創設され、平成27年度よりJSTに移管された制度です。本制度では、事業化ノウハウを持ちベンチャービジネスに詳しい人材（事業プロモーター）を活用して、研究開発リスクや事業化リスクは高いもののポテンシャルが高い大学等の技術シーズを基に、研究者と共に研究開発・事業育成を行い、企業価値が高い大学等発ベンチャーの創出を支援します。

大学等発ベンチャーの起業前段階から公的資金による事業化のための研究開発と民間の事業化ノウハウを組み合わせることにより、大学等の技術シーズの事業化を通じて新産業の創出、新規マーケットの開拓を目指します。

2. STARTの構成

STARTは「事業プロモーター支援型」と「プロジェクト支援型」の2つの事業タイプによって構成されています。各事業タイプの概要は以下の通りです。

ア) 事業プロモーター支援型

大学等の技術シーズの事業化について、研究開発・事業育成を一体的に推進するため、事業化ノウハウを持った人材を事業プロモーターとして選定し、事業プロモーターが行う技術シーズの発掘やハンズオン支援^{注2)}などの活動を支援します。

イ) プロジェクト支援型

事業プロモーターのプロジェクトマネジメントの下、市場や出口を見据えて事業化を目指す大学等の研究開発プロジェクトを支援します。

注1) 大学等：STARTの支援対象で、ここでは国公立大学、国公立高等専門学校、大学共同利用機関法人、独立行政法人（国立研究開発法人を含む）などです。

注2) ハンズオン支援：事業を実施する上で必要なあらゆる課題について、各種アドバイス、コンサルティングを行うとともに、起業家・技術者のリクルーティング、関係先への働きかけなど、きめ細かなサポートを積極的に実施し、付加価値を高めることを目指した支援を意味します。

